

教育目標	【令和6年度】人と心をむすび、志をもって未来を拓く				【令和7年度】人と心をむすび、志をもって未来を拓く			
重点的な取り組み	①児童が「主語」になる授業の実践 ②教師の学びを進めるための研修・研究の推進 ③児童の主体的な学びを支えるための基礎学力の定着 ④児童がみんなのために「これやってみよう!」「自分たちでできることは何かな?」と考えられる特別活動の推進 ⑤「タブレット端末を活用すれば分かりやすくなる」と実感できる授業の実践 ⑥「うまく伝わってよかった」と思えるコミュニケーション力の定着 ⑦「やってみたい!」「やれた!」「またやりたい!」が実感できる授業を通して「体力づくり」の推進 ⑧一人ひとりを大切にし、ともに学び合う人権教育の推進 ⑨だれもが「いっしょにやろう!」と声掛け会える特別支援教育の推進 ⑩「いじめは許さない」という心の醸成と未然防止 ⑪PTAと連携し、保護者に寄り添う「子育て支援」「家庭教育」の支援 ⑫猪名川小学校学校運営協議会を中心にした地域との協働の更なる充実 ⑬スピード感のある組織的な「いじめ対応・生徒指導」の推進 ⑭児童がゆとりをもって学べる「学校行事」の推進と「教育課程」の編成 ⑮児童と向き合える時間の確保に向けた、あい・アイワクワプランの推進 ⑯教職員の心身の健康を守る職員室経営の推進				1 確かな学力とわかる授業づくり ① 児童が「主語」になる授業の実践(少なく教えて豊かに学ぶ) ② 授業力を身に着けるための研修の推進(算数科) ③ 子ども発信の特別活動の推進 ④ タブレット端末を活用した「楽しくわかる授業」の実践 ⑤ 人と心を結ぶコミュニケーション力「書く力・話す力」の継続 ⑥ 「やってみたい!」「やれた!」「またやりたい!」が実感する授業を通して「体力づくり」の推進 2 保護者・地域とともに ⑦ PTA(保護者会)と連携し、保護者に寄り添う「子育て支援」「家庭教育」の支援 ⑧ 猪名川小学校学校運営協議会を中心にした地域との協働の更なる充実 ⑨ まちづくり協議会との連携の推進 3 心の教育 ⑩ 一人ひとりを大切にし、ともに学びあう「特別支援教育」の充実 ⑪ 互いの「人権を守る教育」の推進 ⑫ 「いじめは許さない」という心の醸成と未然防止 4 T.E.A.M.猪名小として ⑬ スピード感のある組織的な「いじめ対応・生徒指導」の推進 ⑭ 児童がゆとりをもって学べる「学校行事」の推進と「教育課程」の編成 ⑮ 児童と向き合える時間の確保に向けた、あい・ワクワクプランの推進 ⑯ 教職員の心身の健康を守る職員室経営の推進			

分野領域	評価項目	1	2	3	4	5	成 果	課 題(教員・保護者)	改善の方策	学校関係者の提言	
1 学校運営	・全教職員の学校教育目標への参画	1	3				・各教科の学習やゲストティーチャーの話、日々の教師の話からも、命の大切さについて伝えられている。 ・夏休み冬休み前の全校朝礼では、学校長より必ず命の話をしている。 ・子どもたちは外でも活発に遊び、エネルギーが感じられる。 ・学校行事に生徒、先生、保護者が積極的に参加をしている。 ・挨拶運動が充実している。	・友だちとのぶつかりやさまざまな課題の中で、学校から足が遠のくというケースが多かったように思う。安心して過ごすことができる場とできているか見つめ直さなければならない。 ・同じ方向を向いて教育活動ができているとはいえない。	・(子どもと)他者との交流の機会の実現、他学年や保護者、ゲストティーチャーとの交流、体験活動を充実させる。 ・活発なボランティア活動の充実、コミュニティスクールの活性化、学年・学校活動への参加体制の計画をしていく。 また情報発信の充実(HP等)も重要である。	・学校行事に保護者もますます積極的に参加し、学校に協力していくのが、子供たちの成長につながる。 ・命の教育の推進について、教員が日ごろから意識高く児童に伝えられていることがとても大切だと思う。 ・毎朝実施しているあいさつ運動は、猪名小が長年取り組んでいる事である。継続できていることが素晴らしい。 ・保護者アンケートでは、「地域や家庭での挨拶が不十分である」という意見が14%あった。保護者との連携の重要性を感じた。 ・各学級が大きな破綻無く、運営されているように見えます。これは当たり前なのですが、現在のように、困り感がある子どもや保護者が増えている中では、とても素晴らしいことだと思う。 ・先生方が丁寧に子どもに接していると思う。 ・ゲストティーチャーを多数招き、子ども達がいろいろな事を学び、経験する機会を得ていて素晴らしいと思う。 ・同じ方向を向いて教育活動ができていないと感じる教員がいるのは残念、是非原因を追究していただきたい。 ・しっかり取り組んでいると思う。不登校をはじめ、取り残されている子どもにどう声掛けしていくか、周りの大人を含めて課題である。	
	・いのちを大切にすることへの取組	2	3								
	・活力にあふれた学校経営	3	3								
2 教育計画	・学校の現状をふまえた校務分掌の編成	4	3				【教育課程】 ・朝学習は、時数としてカウントするのであれば、15分でもいいのではないかと検討が必要である。 ・授業時数を1時間減らしたが、朝学習をしっかりしている学年・クラスとそうでないクラスがあるのが気になる。8時40分までは朝学習であり、移動教室の時間ではないことが共通理解できていなかった。 【時間割】 ・毎学期、時間割を変えることで、教育課程の時数が正確にそろえることができた。 【参観日・懇談会の実施】 ・2学期の参観・懇談会については、学習内容や懇談会でそれぞれの先生が話したことなど、保護者から肯定的な意見が多く見られた。 【児童会】 1.17集会など、集会を児童会を中心に進めることができた。 【体育】 今年度はミニ運動会をもうけず、半日開催とした。学年団で表現を行うことで、学団競技もおりませることができた。	【教育課程】 ・朝学習は、時数としてカウントするのであれば、15分でもいいのではないかと検討が必要である。 ・授業時数を1時間減らしたが、朝学習をしっかりしている学年・クラスとそうでないクラスがあるのが気になる。8時40分までは朝学習であり、移動教室の時間ではないことが共通理解できていなかった。 【時間割】 ・毎学期、時間割を変えることで、教育課程の時数が正確にそろえることができた。 【参観日・懇談会の実施】 ・2学期の参観・懇談会については、学習内容や懇談会でそれぞれの先生が話したことなど、保護者から肯定的な意見が多く見られた。 【児童会】 1.17集会など、集会を児童会を中心に進めることができた。 【体育】 今年度はミニ運動会をもうけず、半日開催とした。学年団で表現を行うことで、学団競技もおりませることができた。	【教育課程】 ・朝学習は、時数としてカウントするのであれば、15分でもいいのではないかと検討が必要である。 ・授業時数を1時間減らしたが、朝学習をしっかりしている学年・クラスとそうでないクラスがあるのが気になる。8時40分までは朝学習であり、移動教室の時間ではないことが共通理解できていなかった。 【時間割】 ・毎学期、時間割を変えることで、教育課程の時数が正確にそろえることができた。 【参観日・懇談会の実施】 ・2学期の参観・懇談会については、学習内容や懇談会でそれぞれの先生が話したことなど、保護者から肯定的な意見が多く見られた。 【児童会】 1.17集会など、集会を児童会を中心に進めることができた。 【体育】 今年度はミニ運動会をもうけず、半日開催とした。学年団で表現を行うことで、学団競技もおりませることができた。	【参観日・懇談会の実施】 ・2学期の参観・懇談会については、以前の振り返りのとおり、子どもの預かりと懇談会の複数人体制の両立が難いため、開催の仕方について検討していく。懇談会中は、別の場所(体育館など)という形にするなど、他の案がないか引き続き検討していく。 ・懇談開始時の教師の声かけを行う。 【児童会】 代表委員を機能させ、各学年の意見を取り入れられるようにする。 【体育】 部会で延期の日程を考え直す(次の日開催にすると、グラウンド状況が悪く、晴れていても開催ができない可能性がある)。 【行事全般】 ・例年どおりではなく、準備時間の縮減や教育効果の見直しを図りながら、工夫改善・再構成を行う。	・懇談会への保護者の参加や児童会活動への児童の積極的な参加をより一層進めていく必要がある。 ・あい・ワクワクプランで放課後時間を有効に使うことや会議の持ち方などの成果があることは大きい。一方で、朝学習の取り組み方の課題が見えてきているので、クラスや学年でばらつきがないよう、共通理解を進めていく必要を感じる。 ・15分の学習の積み重ねは1年間と考えると学習保障の観点から多いと思う。 ・行事全般で『例年通り』の取り組みではなく、児童や地域、学校の実態をもとに猪名川小学校で教育観点から進めていかれることに期待する。 ・校庭の草抜き、草刈りや図書活動や行事等、地域の方が積極的に教育活動に協力されて学校と地域が一体となっている様子が伺える。 ・「教育の質」を高めながら、働き方改革を進めていただければありがたい。 ・働き改革を進めるにあたっては、「心身共に健康な教職員」「教材研究の時間の確保」「子どもと向き合う時間の確保」にこれからも努力してほしい。 ・運動会の予備日については、十分に検討し文書を配布すべきではないか。 ・授業時数が減ったことで、子どもにもすこしゆとりが生まれたように感じるので、良かったと思う。 ・色々な意見はあると思うが、各家庭の環境が異なることを考えると、「誰にとっても安心して安全な学校」という観点で、誰にとっても負担のない、楽しめる行事を行うためには、学校行事のスリム化は今後も継続してもらいたいと思う。行事が大きくなることは、保護者が積極的な家庭が良いが、さまざまな事情で余力のない家庭にとっては辛いと思う。 ・運動会の延期に関しては、今後は客観的な指標で判断するのはどうかと考える。前日(あるいは前々日)の何時の時点で、天気予報で運動会当日の午前中の降水確率が60%以上であれば延期など。 ・校務分掌の偏りは常に課題になっているように感じる。 ・朝学習の時間をしっかり有効利用すべく、時間も含め、改善点がないかを真剣に検討されているのが有難い。 ・懇談やボランティア活動への参加が少なく、参加できる保護者がいつも同じ方々になってしまっていることが残念である。学校でのできごとや、子ども達が受けている支援などを、もう少し保護者に知ってもらう必要があり、そのための情報発信が必要だと感じる。 ・会議や研修報告の在り方について改善を求める声が今年度も上がっている。先生方の負担軽減のためにもしっかり検討してほしい。 ・懇談会にもう少し人が集まるよう対策が必要である。
	・教育課程の計画的実施	6	3								
	・参観日・懇談会の実施、家庭・地域との連携	8 9	4								
	・計画的な職員会議	10	3								
	・業務の見直し、勤務時間の適正化	11	3								
3 学級経営	・学習規律の徹底と学習環境づくり	12	3				・生徒指導の担当を中心に、細かなことにも気をつけるような声かけができています。	【学力向上】 友だちとともに学び合うという姿勢に課題があるように感じる。友だちの考えにも興味をもちながら、自分の考えを深める学習の場、授業づくりを研鑽する必要がある。	【学力向上】 ・生徒指導担当、人権担当、学力向上担当が連携して、く人を大切にした学習規律)について提示し、学校全体で取り組む。 ・放課後学習について 本来は職員でない方が指導することになっていく。職員の負担も考え、ワークを購入していただくなど工夫していく。チャレンジ教室のプリントを整えていく。 ・算数システムが継続されるのであれば、習熟度ではない形の方が子どもたちの学習が深まるのではないか。	・日々の学級での生活の中で、今後も人への思いやりの心を育ててほしい。 ・課題に挙げられている内容について、教員が学びを深めていく姿勢を持っているのが良いと思う。 ・児童理解に力を注ぎ、個に応じた授業を心がけているところが素晴らしい。 ・今年度も、先生方が丁寧な言葉遣いをされていると感じた。子どもの良い見本になっていると思う。 ・昨年度も提言したが、学級や学校の決まり・ルールを明文化していくことが望ましいと思う。何が良いか悪いかを子どもたち自身が分かっていることもあるように感じる。また、ルールで決めた以上は守らせる努力が必要だと思う。 ・子どもたちのことで、担任以外の先生が、子どもに声をかけてくれたり、保護者にも声をかけてくれるのが、とてもありがたい。色々な先生が、それぞれの距離感で関わって下さることが、子ども達の成長につながっていると感じる。 ・引き出しやロッカーの整理整頓や、話を聞く時の姿勢(態度)については、学校だけでなく、家庭での指導も必要などところなので、通信などを使って保護者もしっかり連携し改善に向け取り組んでいただきたい。 ・注意するだけでなく、できたことをしっかりと褒め、行動を振り返らせる(考えさせる)ことを努力されている。 ・子どもたちと先生との信頼関係はしっかりできていると思う。	
	・児童理解と信頼関係づくり	13 14	3								

4	学習指導	・個に応じた学習指導方法の工夫改善	15 16	3	B	【情報教育】 ・ICT機器を活用した授業がおおむねできていたと感じる。 ・情報研修では、ICT機器やTeamsやスカイメニユーの基本的な使い方だけでなく、応用的な活用方法も学ぶことができた。 ・プログラミング研修では、外部の講師を招聘し、プログラミング授業について学ぶことができた。	【情報教育】 ICT研修では、教職員によってニーズが違うので、どのような研修を設ければよいか検討が必要である。 ・タブレット端末の故障が多く、修理にも時間を要した。	【情報教育】 ・来年度夏に新しいタブレット端末が導入に合わせて、どのような研修がしたいか集約していく。また、動作速度が遅くなり、故障の頻度も少なくなると考える。	・知識と技能をしっかりと身につけた上で、主体的に学びに向かう姿勢を育ててほしい。 ・ICT機器を活用した授業を積極的に取り入れ、素晴らしいと感じる。視覚を用いることで理解が進む児童が多いと思う。新しいタブレットの導入もあることから継続した取り組みを願う。 ・学校全体での給食指導のあり方について、考えてほしい。こたわり、偏食、感覚の過敏など、子どもたちの食に向かう課題は増えていると感じる。一斉指導が難しく個別の対応が必須である。教師個人の考え方ではない、学校としての考え方に基づいた対応を願う。 ・教材研究を熱心に行い、わかって楽しい授業を心がけている。
	学習指導	・情報、道徳・人権、福祉、図書館教育の適切な指導	17 18 19 20 21	3		【人権・同和教育】 ・子供の家のことをふまえ、カリキュラムの見直しを含めどのように取り組んでいくか熟慮する必要があるのではないかと感じる。周りの子どもたちは、直接的に何かを言うわけではないが、どう捉えているか、感じているかアンテナを高くしてつかむ必要がある。	【道徳】 ・ほほえみ、こころさめくなどをふくめた、道徳カリキュラムの見直し検討が必要である。	【道徳】 ・カリキュラムを今一度、見直し、精査していくための機会として研修の場を設ける。本校の課題を洗い出し、必要な研修を考えていく。	・タブレットを活用した授業を行っている先生が多い。 ・家庭学習の時間が全国と比較しても短い。学びの楽しさや喜びを味わわせたい。家庭との連携が重要であると感じる。 ・清掃活動については、「平素の掃除」「簡単掃除」のやり方や場所を十分検討すべきではないかと感じる。 ・トイレ掃除の回数や仕方については、児童の健康面や衛生面を十分配慮して検討すべきではないかと感じる。 ・今年度も、子供の家の児童からは「勉強したくないから学校行きたくない」という声が多く出ていないので、素晴らしいと思う。また、学習空白などがある際には、とても丁寧に教えてもらっているのに感謝している。 ・家庭学習に関しては、家庭環境が大きく影響するので、あまり重視してしまうと、家庭学習をとても協力くださる保護者はほとんどいないのが残念である。 ・人権や福祉等に関しては、校区内に児童養護施設があることを活かしてもらえたらと思う。 ・児童自身も家庭での学習が少ないと感じているのが印象的でした。宿題の量や自学ノートの活用法等検討いただきたい。
	学習指導	・安全教育、保健、給食、清掃の適切な指導	22 23 24 25	3		【安全】 ・全校生での避難訓練や、教職員での不審者対応訓練など、予定通り行うことができた。	【安全】 ・教職員で行っている不審者対応訓練を、児童も一緒に実施する必要があると考える。	【給食】 ・各学年で給食指導が異ならないように提案を行う。	・休み時間も掃除の時間も短く、身の回りをキレイに整える習慣がつけにくい状況を改善するにはどうしたらよいか、保護者と学校で協力して取り組んでほしい。 ・図書館の活用はよいと思う。 ・清掃に関しては、遊んでいる子どもちらほら見かける。
分野領域		評価項目	評価項目	評価項目		課 題（教員・保護者）		改善の方策	
5	特別支援教育	・保護者との共通理解のもと行われる個に応じた指導	25	3	A	【通級】 ・必要に応じて、保護者面談をひらき、子どもの実態を共有することができた。	【通級】 ・担当と担任、保護者の子どもとの捉え方にずれがあると感じることがあった。強みと弱みを明確に伝える必要性を強く感じた。	【特別支援教育】 ・引き続きファイルや電話で協力を依頼していくことと、福祉との連携を密に行う。 ・児童の様々な課題について、巡回相談などでアドバイスを継続して受ける。 ・校内支援委員会で児童の様子を交流し合い、巡回相談などにつなげていく。 ・保護者への対応は、できる限り複数で行う。	・児童、保護者のニーズに寄り添いながら、引き続き取り組んでほしい。 ・担当、保護者の子どもとのとらえ方のずれの課題改善の方策で、保護者への対応は、複数で行うとなっている。限られた職員数で複数で対応していく難しさがあると思うが、一人て対応すると子どもとのとらえ方以外にずれが生じて大きな課題につながるかと考える。 ・関係機関との連携が密にできている。 ・保護者との連携・共通理解には時間がかかるが、児童の成長のためには必要であると感じる。 ・今年度も、特別支援学級に行っている子どもから、他の子から差別的な扱いを受けたという話を全く聞かないので、とても素晴らしいと思う。学校全体の取り組みや、先生方の姿勢が子ども達に伝わっているように思う。 ・「なぜ自分は特別支援学級なのか」ということは、非常にデリケートなことではあるが、高学年になってくると、多くの子どもが疑問として抱いているように感じる(子供の家庭では「なんて、あの子だけ宿題少ないの?ずるくない」という声が聞こえてくることもある)。その辺りの視点も、日々の関わりに入れていってもらえると良いと思う。 ・熱心な先生が多いと思う。
	特別支援教育	・文芸学級児童とつながる取組	26	3		【特別支援教育】 ・保護者に協力してほしいことなど、ファイルや電話で伝えることができた。 ・今年度園訪問を早めることで、新1年生について情報共有を丁寧に行うことができた。 ・児童の困り感については、今年度校内支援委員会へ広く児童の様子を把握し、コア会議や巡回相談(町・川西養護学校・カリヨンの丘特別支援学校)につなげることができた。	【特別支援教育】 ・連絡がつきにくい等、保護者との連携に苦慮することがある。		
	特別支援教育	・児童の教育相談、SCとの連携	27	3					
6	生徒指導	・組織的な生徒指導	28	4	A	【生徒指導】 ・子どもたちのいじめに関係する問題行動を早めに察知して、組織的に対応できている。 ・指導記録やケース会議録の保存、保存先の共有をすることができた。 ・担当の先生方を中心に問題を共有できている。	【生徒指導】 ・担当の負担が大きい。 ・聞く姿勢や、整理整頓などのルールが守れていない児童がいる。 ・主体的に子どもたちが自ら動いて、守ろうとする姿勢に課題がある。 ・朝のあいさつが返ってこない。声が小さい。 ・不登校(傾向)児童が多い。 ・関係の先生方以外、「知らなかった」という状況が生まれないよう、きちんと共有する必要性を感じる。	【生徒指導】 ・担当の人数を増やして、仕事を細分化する。 ・同じ人ばかりが何年も担当をしない。交代する。 ・聞き取り、記録は各学年で行う。 ・同歩調で、しっかりと聞き取りができるように、聞き取りの仕方を研修で積む。 ・担任まかせてではなく、学校全体で指導・支援にあたっていく。 ◎ルールの徹底について ・「子どもができていない」ではなく、まずは教員自らの行動を振り返られるようにする。(1人ひとりの子どもを大事にする視点を忘れない) ・なぜそのルールが必要なのかを子どもたちとともに考え、委員会活動などを活用して、守れるように呼びかけをしていく。	・今後も迅速な対応、スピード感が必要である。 ・いじめについて組織的な対応が行われているようなので、今後の継続を願う。 ・ルールの徹底について、教員自身の言動を振り返ることや、教員同士が伝え合える関係性も大切だと思う。 ・関係機関と連携を図ったり、校内で役割を持ったり、全職員で共通したかわわりを意識したりと、日々大変きめ細やかな対応をしていると思う。 ・一部の教職員に負担がかからないように、組織的に対応することを心がけてほしい。 ・生徒指導の先生を中心にいつもお世話になっていて、ありがた。今年度も、初期対応がとても迅速で、どのクラスで問題が起きても、ある程度対応の形が統一されてきたように思う。 ・いじめに関しては、町内で大きなことがあったので、保護者の関心は高いと思う。学校だけで抱え込むのは難しいので、外部機関との連携も視野に入れておいた方がよいと思う。 ・多くの先生に気にかけてもらうことで救われたり、問題を予防できる子もいるので、先生間での情報共有を願う。 ・先生方が児童一人一人の様子に気も配って、児童の成長に尽力くださっていると感じる。 ・保護者との連携が難しいと、先生が抱え込んでしまっていないか心配である。
	生徒指導	・問題行動の指導	29	3				◎あいさつについて ・児童運営委員会を中心に、進んであいさつができるような活動を考える。 ◎いじめ・不登校について ・字重・保護者に安心、安全のメッセージとなる取組を実施する。 ＜いじめ＞生活アンケートの報告、授業の実施、児童会主体の活動の実施等 ＜不登校＞不登校について、背景や具体的な手立てを十分に検討する。(SSWとの連携)。	
7	研究・研修	・研修の計画・実施	30 31	3	B	【研究研修】 ・年3回の研究授業及び一人一授業の実施により、授業づくりの成果と課題を把握することができた。 ・研究授業後には参加した教員による振り返りや講師からの指導講評から、授業改善や児童理解にもつながった。	【研究研修】 ・一人一授業の実施日が3学期に集中してしまっていた。 ・公開授業日以外でも、教員間の授業参観ができるような取り組みが必要である。 ・業者によるテストのみの実施ではなく、学年に応じたテストの作成もしくは問題に取り組ませる機会があれば良いと考える。	【研究研修】 ・年3回以上の研究授業の継続していく。 ・研究科目が変わるので、新たに児童のつまずきの発見や、教材の選定をしてく。 ・他校の研究会や講演会への参加を積極的に行う。	・研修したことをどう実践に生かすかが肝心である。 ・一人一授業の成果が年度内に生かせるようになればいいと思う。 ・授業研修、研究は非常に先生方がいきいきと学ぶ場だと思う。継続的な実施を願う。 ・校内研究会については、他校にも発信し、教職員の力量を高めあえるようにしてはどうかと考える。 ・小学校全体として、常に前進しようという姿勢が見られていて、それが研究や研修の成果だと思う。 ・研修をより意味のあるものにし、真剣に取り組んでいらっしゃる様子がアンケート結果の課題につながっていると感じる。 ・どのような研修が行われているかわからない。
	研究・研修	・研修成果の普及	32	3					